

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年2月9日

上場会社名 株式会社ユニリタ 上場取引所 東
コード番号 3800 URL https://www.unirita.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員(氏名) 北野 裕行
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 (氏名) 金子 紀子 (TEL) 03-5463-6381
グループ業務本部長
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2024年3月期第3四半期	8,805	6.6	737	37.7	872	21.7	577	27.7
2023年3月期第3四半期	8,263	9.7	535	38.5	716	44.9	451	45.7

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 588百万円(13.1%) 2023年3月期第3四半期 520百万円(38.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	76.35	—
2023年3月期第3四半期	59.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2024年3月期第3四半期	14,978	11,442	76.4	1,512.08
2023年3月期	15,135	11,329	74.9	1,501.16

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 11,442百万円 2023年3月期 11,329百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	34.00	—	34.00	68.00
2024年3月期	—	34.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	34.00	68.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	12,150	5.2	920	0.4	1,050	△7.3	800	6.3	105.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期3Q	8,000,000株	2023年3月期	8,000,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	432,826株	2023年3月期	452,676株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期3Q	7,558,440株	2023年3月期3Q	7,537,304株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会活動の正常化が進み、国内景気は緩やかな回復傾向となりました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化や緊迫する中東情勢による世界経済の先行き不透明感からくる、インフレの加速や急激な為替変動などに依然として注視が必要な状況です。

このような状況下において、国内企業のIT投資動向は、大手企業を中心に更なる付加価値の向上やビジネスモデルの変革を目的としたバリューアップ投資が拡大する一方、既存のレガシーシステムの更改ニーズに伴うダウンサイジングやクラウドへの移行へと行った効率化投資も堅調に推移しています。

現在、当社では中期経営計画(2021年度～2023年度)の基本戦略である「サービスシフト」に取り組んでいます。この取り組みは、当社製品やサービスを活用されるお客様の利便性向上に加え、お客様とのつながり方を変革し、利用価値の最大化を目指すカスタマーサクセス活動として取り組んでいます。なお、当四半期の「サービスシフト」に基づく主な実績は、以下のようなものです。

■複数のSaaS間の業務フローを自動化する「bindit」、「kintone」との連携を開始

業務フローを自動化するSaaS連携ツール「bindit(バインドイット)」は、サイボウズ株式会社が開発、提供するSaaSアプリケーション「kintone」との連携を開始しました。「kintone」は、データベースやワークフロー、業務コミュニケーションに有効なアプリをノーコード・ローコードで作成できるため、現場主導の業務改善を実現しています。この度の「bindit」との連携が、「kintone」を用いた電子契約の締結業務や商品の入庫・出庫管理業務の自動化を支援します。

■当社が提供する6つのサービスが、「第17回ASPICクラウドアワード2023」の各賞を受賞

総務省後援の「第17回ASPICクラウドアワード2023」は、国内で優秀かつ社会に有益なクラウドサービスに対し、総務大臣賞やアワード総合グランプリ他、各賞の表彰を行っています。この度、当社が提供する「LMIS(エルミス)」や「Growwing(グロウイング)」、「まるっと帳票クラウドサービス」など6つのクラウドサービスが、先進ビジネスモデル賞やASPIC会長賞、奨励賞などを受賞しました。

■(株)ユニ・トランドの社会課題解決サービス、岐阜県笠松町が運営するコミュニティバスに採用

バスの運行データや乗降データのリアルタイム収集と分析を自動化するサービスが、岐阜県笠松町が運営するコミュニティバスに採用されました。本サービスは、位置情報や混雑情報などの可視化によるバス利用者の利便性向上と、リアルタイムデータに基づく運行情報の収集と分析で、バス事業者の運営効率を飛躍的に高めます。また本サービスは、デジタル田園都市国家構想の取り組みにも重要になるものと考えています。

■(株)ヒューアップテクノロジーの人材派遣業界向けサービスの拡充に向け、Appシリーズをリリース

「人材派遣業界のあらゆる業務のDX化」をコンセプトに、人材ビジネスに必要な業務ソリューションの統一プラットフォーム化に向け、Appシリーズの提供を開始しました。この取り組みの一環として、インボイス制度に対応する「AppInvoice(アップインボイス)」や、スマホによるビジネスコミュニケーションツール「AppMyPortal(アップマイポータル)」、さまざまなシステムやサービスを連携する「AppTransformer(アップトランスフォーマー)」などをリリースしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高88億5百万円(前年同期比6.6%増)となり、全セグメントにおいて概ね計画通りに推移しました。利益面では、クラウドサービスセグメントの収益改善やプロフェッショナルサービスセグメントの事業増収効果により、営業利益7億37百万円(同37.7%増)となり、これに伴い経常利益8億72百万円(同21.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億77百万円(同27.7%増)となりました。

<セグメント業績>

セグメントごとの業績は次のとおりです。

		(百万円)					
セグメント	項目	1 Q	2 Q	3 Q	累計	前年同期	前年同期比 増減率
プロダクトサービス	売上高	1,083	1,155	1,109	3,349	3,290	1.8%
	営業利益	246	279	223	749	774	△3.3%
	営業利益率	22.7%	24.2%	20.1%	22.4%	23.5%	△1.1pt
クラウドサービス	売上高	767	869	817	2,454	2,331	5.3%
	営業利益	△31	21	△25	△36	△250	-
	営業利益率	-	2.4%	-	-	-	-
プロフェッショナルサービス	売上高	1,062	988	950	3,001	2,640	13.7%
	営業利益	90	88	111	290	152	90.3%
	営業利益率	8.5%	8.9%	11.7%	9.7%	5.8%	3.9pt

<プロダクトサービス>

自動化・帳票事業においては、DX推進に伴うシステム更改や本格化する「2025年の崖」問題への対応ニーズを受け、自動化を伴うマイグレーション案件の受注が増加し、堅調に推移しました。また、帳票領域のサービスシフトを牽引する「まるっと帳票クラウドサービス」が、インボイスや電子帳簿保存法対応も含め、固有業務の多いエンタープライズ企業のニーズにマッチし、受注が増加しました。

メインフレーム事業においても、ハードウェアやシステム更改に伴う受注により、計画通り推移しました。

<クラウドサービス>

IT活用クラウド領域は、業務別に異なるアプリケーションやクラウドサービスを利用するお客様の増加に伴い、システム連携やアクセス管理などへのニーズが高まる中、「Waha! Transformer (ワッハー・トランスフォーマー)」やinfoScoop×DigitalWorkforce (インフォスkoop デジタルワークフォース) の引き合いが増加しました。また、「LMIS」については、企業のセキュリティ強化のニーズに加え、パートナー企業によるシステム運用事業の強化を背景に案件が大型化し、受注が堅調に推移しました。

事業推進クラウド領域では、通勤費管理システム「らくらく通勤費」が、「SmartHR」とのシームレス連携を開始後、パートナー経由の受注が増加しました。また、「Growwing」が、事業のデジタルサービス化、サブスクリプション化を推進する企業からの引き合いが増加し、受注が伸長しました。

ソーシャルクラウド領域においては、持続可能な地域公共交通の実現を支援する移動体IoTサービスが、デジタル田園都市国家構想を追い風に、複数の地方自治体向け案件を受注しました。

なお、損益面では、好調な主力サービス群の増収効果により、第3四半期累計の営業利益が前年同期比2億14百万円改善し、36百万円の損失となりました。

<プロフェッショナルサービス>

コンサルティング事業では、データドリブン経営を志向する企業や顧客視点で事業を拡大する企業のバリューアップ投資ニーズを背景に、この分野における当社グループ企業の持つノウハウと実績が評価され、受注が増加しました。

システムインテグレーション事業では、DX推進ニーズの高まりを受けたパートナー企業からの案件増に加え、グループ顧客基盤の活用や「Waha! Transformer」を基盤としたデータ連携開発案件などの高収益モデルへの転換が奏功し、収益性が向上しました。

アウトソーシング事業では、当社グループの提供するプロダクトに同事業の運用サービスを加えた提案が、競争力の向上に寄与しました。また、マイグレーション案件の増加に伴う受注も好調に推移しました。

(脚注)

・まるっと帳票クラウドサービス

一般的な請求書の電子化やWeb配信から、多くのエンタープライズ企業に見受けられる専用封筒や専用紙を利用した郵送・宅配便などの特殊な帳票業務要件まで、幅広いアウトソーシングニーズに対応可能。帳票運用にまつわる全ての業務のDXを推進。

・Waha! Transformer (ワッハー・トランスフォーマー)

提供開始以来20年以上の運用実績を誇る、純国産のノーコードETLツール。大手企業を中心に2000ライセンス以上の導入実績を持つ。企業のビジネス環境にあわせて、基幹系システムからクラウドデータベース、Web APIやExcelファイルまで、さまざまなデータ連携を実現している。

・LMIS (エルミス)

事業者が顧客に提供するサービスを適切にマネジメントし、サービスによる課題解決と継続的なカイゼンを実現するプラットフォーム。サブスクリプション形式での提供で、導入コストやランニング費用を抑えた利用を可能にしている。

・infoScoop×DigitalWorkforce (インフォスkoop デジタルワークフォース)

利用者と管理者であるIT部門の生産性とセキュリティを向上する機能を取り揃えた働き方改革のプラットフォーム。「ポータル」「シングルサインオン」「ID管理」「API管理」「セキュアブラウザ」の5つの機能を組み合わせ、安全で快適なリモートワーク環境を構築することができる。

・Growwing (グローウィング)

LTVの最大化を実現するためのカスタマーサクセス支援サービス。同サービスが持つ低コストかつ短期で導入できる顧客データの一元管理プラットフォームを使うことで、顧客の成功体験を促進させる分析、施策、活動に必要なリソースを確保する。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末(以下、当第3四半期末)における総資産は、前連結会計年度末(以下、前期末)と比較して1億57百万円減少し、149億78百万円となりました。これは主に現金及び預金が2億77百万円増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が2億93百万円及びソフトウェアが1億24百万円それぞれ減少したことによるものです。

(負債)

負債は、前期末と比較して2億69百万円減少し、35億36百万円となりました。これは主に、買掛金が1億17百万円、賞与引当金が1億2百万円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産)

純資産は、前期末と比較して1億12百万円増加し、114億42百万円となりました。これは主に、利益剰余金が63百万円、譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分により自己株式が30百万円減少並びにその他有価証券評価差額金が6百万円増加したことによるものであります。利益剰余金については、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により5億77百万円増加し、配当金の支払いにより5億13百万円減少しています。

この結果、当第3四半期末における自己資本比率は76.4%(前期末は74.9%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、一部の研究開発費や人材投資等の執行を下期に変更しており、第4四半期も引き続き経営基盤強化のための追加費用を見込んでいることから、計画通りの推移を想定しています。したがって、当期2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月12日に発表しました通期連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,008,031	9,285,354
受取手形、売掛金及び契約資産	1,447,873	1,154,537
棚卸資産	38,191	59,348
その他	325,572	381,112
貸倒引当金	-	△42
流動資産合計	10,819,668	10,880,310
固定資産		
有形固定資産	102,926	94,192
無形固定資産		
ソフトウェア	648,902	523,988
のれん	396,533	339,574
その他	4,299	4,299
無形固定資産合計	1,049,735	867,861
投資その他の資産		
投資有価証券	2,794,855	2,801,976
繰延税金資産	117,769	117,905
差入保証金	174,908	173,979
その他	75,514	42,111
投資その他の資産合計	3,163,048	3,135,972
固定資産合計	4,315,711	4,098,025
資産合計	15,135,380	14,978,335

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	523,330	406,233
リース債務	209	-
未払法人税等	170,897	155,002
前受収益	1,749,681	1,749,740
賞与引当金	306,790	203,983
その他	826,298	813,317
流動負債合計	3,577,207	3,328,277
固定負債		
長期末払金	131,033	100,897
退職給付に係る負債	69,723	77,175
繰延税金負債	27,610	29,804
固定負債合計	228,366	207,878
負債合計	3,805,574	3,536,155
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,330,000	1,330,000
資本剰余金	1,584,041	1,590,730
利益剰余金	8,663,201	8,726,439
自己株式	△690,080	△659,452
株主資本合計	10,887,161	10,987,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	428,416	434,501
為替換算調整勘定	14,227	19,961
その他の包括利益累計額合計	442,643	454,462
純資産合計	11,329,805	11,442,180
負債純資産合計	15,135,380	14,978,335

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	8,263,247	8,805,461
売上原価	3,570,843	3,875,598
売上総利益	4,692,404	4,929,862
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	1,576,684	1,507,395
貸倒引当金繰入額	-	42
賞与引当金繰入額	91,491	104,094
退職給付費用	26,297	31,160
研究開発費	335,412	278,453
のれん償却額	56,959	56,959
その他	2,070,211	2,214,459
販売費及び一般管理費合計	4,157,055	4,192,566
営業利益	535,348	737,295
営業外収益		
受取利息	2,510	1,888
受取配当金	123,024	114,211
保険配当金	4,636	4,801
為替差益	-	1,254
その他	52,441	16,807
営業外収益合計	182,613	138,964
営業外費用		
支払利息	116	35
持分法による投資損失	-	3,208
為替差損	484	-
コミットメントフィー	749	749
営業外費用合計	1,351	3,993
経常利益	716,610	872,266
特別損失		
固定資産除却損	1,312	-
減損損失	46,875	-
特別損失合計	48,187	-
税金等調整前四半期純利益	668,423	872,266
法人税等	216,529	295,134
四半期純利益	451,894	577,131
親会社株主に帰属する四半期純利益	451,894	577,131

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	451,894	577,131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60,246	6,084
為替換算調整勘定	8,673	5,733
その他の包括利益合計	68,920	11,818
四半期包括利益	520,814	588,950
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	520,814	588,950
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月5日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役等（社外取締役を除きます。）に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分を行いました。この処分により自己株式は30,628千円（19,850株）減少いたしました。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プロダクト サービス	クラウド サービス	プロフェッショ ナルサービス			
売上高						
外部顧客への売上高	3,290,979	2,331,508	2,640,759	8,263,247	—	8,263,247
セグメント間の内部 売上高又は振替高	42,081	122,284	441,527	605,893	△605,893	—
計	3,333,061	2,453,792	3,082,287	8,869,141	△605,893	8,263,247
セグメント利益又は 損失(△)	774,597	△250,563	152,723	676,758	△141,409	535,348

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用とは、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費を指しております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プロダクト サービス	クラウド サービス	プロフェッショ ナルサービス			
売上高						
外部顧客への売上高	3,349,192	2,454,909	3,001,359	8,805,461	—	8,805,461
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45,824	116,999	378,490	541,315	△541,315	—
計	3,395,016	2,571,909	3,379,850	9,346,776	△541,315	8,805,461
セグメント利益又は 損失(△)	749,328	△36,462	290,612	1,003,478	△266,182	737,295

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用とは、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費を指しております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。